

<b>テフリトリオン・フェントラザミド剤</b> <b>ボデーガード豆つぶ250</b>	<b>取扱メーカー：</b> クミカ  <b>原体メーカー：</b> 全農・バイエル・北興、バイエル
<b>成分：</b> テフリトリオン〔トリケトン系〕……………12.0% フェントラザミド〔テトラゾリノン系 PRTR・1種〕…12.0%	<b>性状：</b> 類白色粒状 粒径2～5mm <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> —

### 【品目特性】……………

- テフリトリオンとフェントラザミドの2種混合の水稲用初・中期一発除草剤である。
- スルホニルウレア抵抗性雑草やイボクサ、クサネムなどの特殊雑草にも有効である。
- 約40～50日の残効性を有し、通常の圃場条件下では1回の散布で雑草防除ができる。
- 水稲に対する選択性が高く、通常の圃場条件下では安心して使用できる（砂質土壌や漏水田での使用はさける）。
- 粒径約5mmの豆つぶ製剤で、10a当りの使用量が250gと軽量、省力型の除草剤である。
- フロアブルやジャンボ剤と同様の自己拡散型製剤で、水中拡散性が極めて優れているため水田の周縁部散布など、不均一散布が可能である。
- 畦畔を回りながらフロアブルのように袋からの直接散布や、ひしゃく散布、動力散布機での省力散布ができる。
- 粒が大きいので、風による飛散が少ない。また、散布時に衣服が汚れない。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

- 共通注意事項の5. 水稲除草剤散布 使用上のポイントを参照。
- 雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失ないように散布する。
- 散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止める。
- 多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布する。

雑草名	散布適期
ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ エゾノサヤヌカグサ	2葉期まで
ミズガヤツリ	4葉期まで
オモダカ	発生始期
ヒルムシロ	発生期まで
セリ	再生始期まで
アオミドロ・藻類による 表層はく離	発生前

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- オモダカは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないで、必要に応じて有効な前処理剤又は後処理剤と組み合わせて使用する。
- 無人ヘリコプターで散布する際は以下に注意する。
  - 散布は使用機種の使用基準に従って実施する。
  - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
  - 事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置のメタリング開度を調整する。
  - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離して圃場内に散布する。
  - 水源池、飲料用水などに飛散、流入しないように十分注意する。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 藻類・表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため周縁散布をさけ、本田内で水田全面に散布する。

●共通注意事項の5. 水稻除草剤散布 葉効・葉害等の注意を参照。

●適用作物（水稻）への葉害などの注意は「葉害注意事項解説」を参照。

●適用外作物（いぐさ、れんこん、せり、くわい）の葉害などの注意は「葉害注意事項解説」を参照。

●無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意する。

●無人ヘリコプター散布の際は、共通注意事項の2. 空中散布及び無人航空機（無人ヘリコプター等）による散布・滴下に関する注意事項を参照。

## 【安全対策上の注意】 .....

●藻類に影響を及ぼすので使用時並びに使用後も注意する。散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。

## 【適用と使用法】 .....

作物名	適用雑草名	使用時期	10 a 当り 使用量	使用方法	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ エゾノサヤヌカグサ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後5日～ ノビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで	250g	湛水散布、 湛水周縁散布 又は 無人ヘリコプ ターによる 散布	1回 ※

※テフリトリオンを含む農薬の総使用回数：2回以内

※フェントラザミドを含む農薬の総使用回数：1回